

幸長(四国大大学院)3位 男子円盤

投てき2冠 来年以降に



男子円盤投げで優勝し、表彰式で笑顔を見せる堤。左は2位の湯上、右は3位の幸長＝デンカビッグスワンスタジアム

2冠の夢は来年以降に持ち越しとなった。男子円盤投げで3位となり、初優勝した砲丸投げに続くタイトル獲得を逃した幸長(四国大大学院)は「2冠は意識することなく、いつも通りの投げはできたが力不足だった」と完敗を認めた。

2投目以降は全て54、55センチと普段の練習より高いアバレージをマーク。全体的に悪いところはなかったものの「大きい1本が出なかったことが響いた」と振り返る。「自己ベスト(56センチ67)の投げができていれば2位だった。このレベルの大会になると、ベストを出さなければ順位は上げられない」と話す。

投てき2種目で「二刀流」を貫く若武者は、その珍しさだけではなく実力も伴って注目度を高めている。「どちらの種目も技術面を安定させることが課題。記録を狙うより、課題をこなせるようにしたい」。成長途上の23歳は日本一に浮かれた様子もなく、冷静に足元を見つめた。

(石津遠)